

2007年度文化庁映画賞・文化記録映画大賞受賞作品
2007年日本ジャーナリスト会議 J C J 特別賞受賞

2008国際女性デーひろしま

忘
れ
た
い
こ
と
を
話
し
て
く
れ
て
あ
り
が
と
う

ひ
め
ゆ
り

長編ドキュメンタリー映画

13年間にわたって撮り続けた証言。

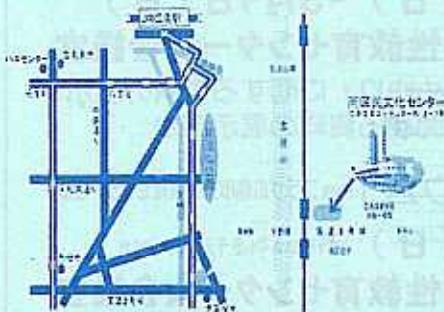
沖縄ひめゆり学徒の生存者22人。

未だ一切語れぬ元学徒もいる。

託児室
あります

出演：ひめゆり学徒の生存者22人 監修：ひめゆり平和祈念資料館 監督：柴田昌平
プロデューサー：大兼久由美、小泉修吉 撮影：澤幡正範、一之瀬正史、川崎哲也、川口慎一郎 題字：財前謙
音響効果：鈴木利之 音楽演奏・編曲：浦尾画三 MA：門倉徹 製作：プロダクション・エイシア
共同製作：財団法人沖縄県女師・高女ひめゆり同窓会 文部科学省選定

(2006年 / 日本 / カラー / 2時間10分 / スタンダード 芸術文化振興基金助成事業)



3月8日(土) 南区民文化センター 大ホール
(広島市南区比治山本町16番27号)

13:30~ 開会行事(沖縄三線演奏&踊りなど)
14:00~ 映画『ひめゆり』上映

参加費 一般1000円(当日1,300円)・中学生以上600円

主催 / 2008国際女性デーひろしま実行委員会・広島市 後援 / 広島沖縄県人会
連絡先 / 広島市中区大手町2-20 鷹野橋パーキングビル6F TEL&FAX: 050-1269-7384

2008国際女性デーみあしま

私たちは、男女平等、女性の地位向上、平和、男女共同参画社会の実現に向け、日々様々な形で活動している団体で構成している実行委員会です。

3月8日の国際女性デーを記念して、映画上映会を開催します。今年は、世界の戦争、紛争が続く中で、沖縄の歴史を学習し、平和への力にしていきたいと企画しました。長編ドキュメンタリー映画「ひめゆり」を上映し、沖縄のうたと踊りで交流します。併せて関連企画「展示とシンポジウム」も行います。みなさんのご参加をお待ちしています。

長編ドキュメンタリー映画

ひめゆり

13年の時をかけ、生存した女生徒 22人の言葉を丹念に紡いだ作品

映画の完成を待たずに3人の証言者が亡くなっている。
ひとつひとつ私たちは失くしていく。
全てを失くす前に叶えたい。
おばあたち、待っててね、
なんにも分かっちゃいない私はせめて
おばあたちが好きだった歌をうたおう。
鮮やかに見えるようだ。壇の中の笑い声。
あなたが笑ってくれる歌を届けるからね。
“忘れないこと”を話してくれてありがとう。
“忘れちゃいけないこと”を話してくれてありがとう。

歌手 Cocco(毎日新聞『想い事。』より)

繰り返し映画やテレビ、舞台で取り上げられ「聖なる人々、殉國美談、反戦の語り部…」さまざまなイメージが「ひめゆり」にはつきまとっています。私自身には重すぎるテーマでした。しかし縁があってひめゆりの生存者の方々にお会いしてみると、私がわかったつもりになっていたのは余りに表面的なことにすぎないと気づき愕然としました。

ひめゆり学徒たちの思いと体験は、それを伝える側の気持ちが強すぎるあまり、かえって耳を傾けてもらえないかたり、断片として切り取られ伝えられることが多かったです。沖縄の親戚の家に泊まり込み、彼女たちの証言にじっくりと耳を傾ける日々が始まりました。果てしない記録は今も続いています。

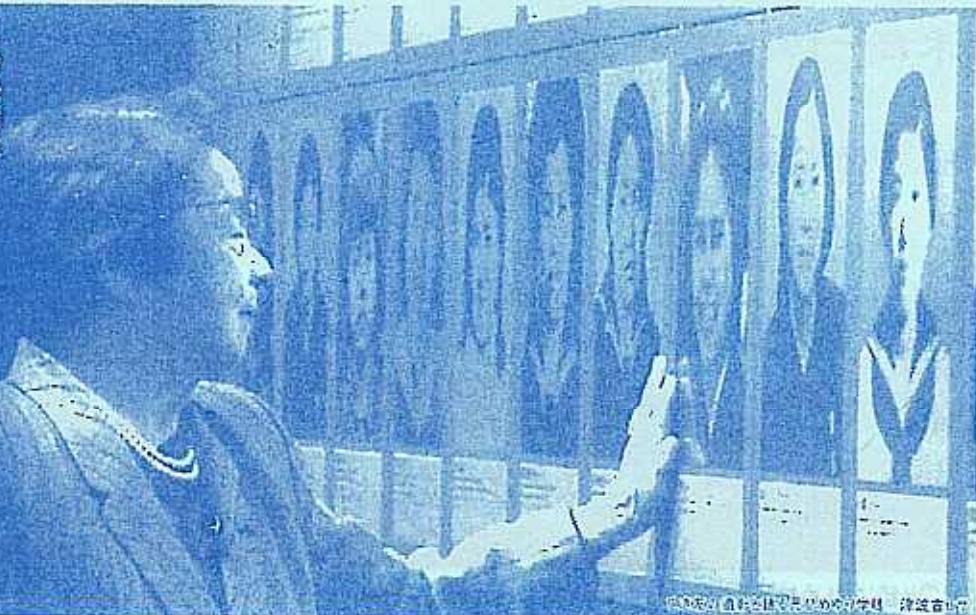
監督 柴田昌平

ひめゆり学徒生存者

本村つる

この映画は生き残った者の真実の叫びであり亡くなつた友への心の奥底からの鎮魂の思いを綴つたものです。

生存者はほとんどが80歳を越えました。いつかは消えてなくなります。でも何年たつてもこの映画はひめゆりの記憶を後世に確かに語り継ぐ大事な財産になるだろうと信じています。



国際女性デーとは?

1904年3月8日に、アメリカ合衆国のニューヨークで女性労働者が婦人参政権を要求してデモを起こしたことに端を発しています。国連は、1975年(国際婦人年)の3月8日以来、この日を「国際婦人デー」と定め、現在は国連事務総長が女性の十分かつ平等な社会参加の環境を整備するよう加盟国に対し、呼びかける日となっています。



関連企画

[展示]

- 3月2日(日)~3月9日(日)
- 広島市女性教育センター大会議室
☆映画「ひめゆり」に関する資料の展示
☆沖縄戦に関する資料の展示ほか

[シンポジウム]

- 3月2日(日)
☆広島と沖縄の女性による本音トーク
～平和のために政策決定の場への女性の参画
- 広島市女性教育センター大会議室